

第6章 教育の成果

本章では、学生の学位取得状況等を把握分析するとともに、卒業・修了後の進路状況についてもまとめる。また、学部授業評価アンケートの調査結果にもとづいて教育効果の実情を把握すると共に、卒業生・修了生や就職先関係者に対する意見聴取の結果からも教育研究指導の効果や成果について点検・評価を行う。

6-1. 教育方針の明示と達成状況の検証

学部・研究科ともに教育研究の目的および人材養成の目的を定め、全学生に配布する「学生便覧・授業計画」冒頭に掲載して明示している。またそれらの目的を達成するため、教育課程編成および実施の方針としてのカリキュラム・ポリシー及び学位授与のための到達点の目安としてのディプロマ・ポリシーも「学生便覧・授業計画」に示している。これらはホームページにも掲載して、周知を図っている。

これらの目的や方針の達成状況を具体的な数値などで図るのは困難であるが、卒業生、修了生の数や、主な就職先は教務掛でデータを集計し、年報および学部ガイドブックに掲載して、構成員の目に触れるようにしている。また達成状況の検証に向けて授業評価アンケート、卒業時アンケート、卒業生アンケート等を実施している。

[分析評]

教育方針が定められ、明示されている。また卒業生・修了生データの公表およびアンケート調査を通じて、その達成状況を検証・評価するための取組が行われている。

[資料]

○農学研究科及び農学部における教育研究・人材養成に関する内規 ○農学研究科／農学部カリキュラム・ポリシー ○農学研究科／農学部ディプロマ・ポリシー ○農学部学生便覧・授業計画 ○農学研究科学修要覧・シラバス ○農学研究科／農学部ホームページ ○農学研究科／農学部年報[生命・食料・環境]

6-2. 学位授与の状況

第5章で述べたように、学士の学位は、所定の単位数を修得したものに与えられる。過去5年間を見ると、入学した学生の95%が学位を取得して卒業している<表6-1>。

また修士課程における修了要件は専攻科目30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格することと定められている。学位論文審査方法は第5章に記したとおりであり、高い水準を保つべく内容が吟味されている。過去5年間の平均修士学位取得者数は、平均入学者数の94%である<表6-1>。大部分が正規の年限（2年）で課程を修了している。

博士後期課程ではさらに3年間の研究指導を受けることにより修了が認定され、論文審査によって学位が授与される、この学位論文審査も5章に記したとおりの手順で行われ、内容がチェックされる。5年間の年あたり平均進学者数に対する学位取得者数の割合は86%である<表6-1>。正規の年限（3年）で学位を取得する者は約50%で、正規の年限で取得できな

かった者もほとんどがその後2年以内で学位を取得する。

研究活動の項で述べられている当研究科の発表学術論文のほとんどには学生の名前が共著者となっており、彼らの学位論文の内容が、学術論文の主要部分を構成する場合が多い。学術論文の多くは査読を受けており、学術雑誌の出版基準をクリアしたもののみが論文として受理されるので、水準はそこで担保されている。

研究科の業績は10章で述べるように高い水準にあり、このことはその業績を支える学位論文の水準を反映するものである。全体として高いレベルの研究を遂行できていることは、すなわち教員と学生とが一体となって進める教育がすぐれた成果を挙げていることを示している。

[分析評]

適切な評価体制に基づいて内容の水準に十分配慮した学位授与が行われ、多くの学位取得者を定常的に社会に送りだしていると言える。

[資料]

○農学部学生便覧・授業計画 ○農学研究科学修要覧・シラバス ○博士学位論文取扱内規

6-3. 卒業・修了者の進路／活動状況

6-3-1 学部卒業者の進路状況

卒業生の大部分が大学院に進学する。学部卒業で就職する学生は全体の15%程度である。就職先・職種は多様で、一定の傾向を把握しがたいところがあるが、ほとんどが定まった職に就いており社会人として活躍している。

6-3-2 大学院修士課程修了者の進路状況

過去5年間のデータによると、ほとんどの修了生が企業等に就職し、博士課程に進学するのは15~22%である。就職者の職種としては企業の技術者や研究者が多い。教員になる者は比較的少ない<表6-2>。

6-3-3 大学院博士後期課程修了者の進路状況

同じく過去5年間のデータによると、博士後期課程修了者・認定退学者の76~86%が就職し、主に博士研究員を含む研究者としての職を得ている<表6-3>。

[分析評]

学部卒業生の多くがさらに専門領域の深い知識を得るために大学院に進学し、修士課程、博士後期課程で研鑽を積んだ後、主に研究者、技術者として社会で活動している。人材養成の目的を実現できており、満足のいく成果が挙げられていると言える。

6-4. 在学生への授業アンケート調査と結果

学期ごとに実施している学部授業評価アンケートによれば、多くの学生が授業で知的に刺激され、授業が自分の学習にとって有益であったと回答している。実際、専門科目の講義が

中心となる 2、3 回生の配当科目を対象とした平成 21 年度の結果では、授業で知的な刺激を受けたとの回答が講義形式の科目で 6 割以上あり、特に実験・実習科目では 8 割以上に及んだ。ただし「授業のために自主的に学習した時間」に対する回答は全般的に短く、自学自習を尊重する本学の方針が十分に学生に浸透していない傾向が見受けられる。

在学生に対して実施した教育全般に関するアンケートの結果<図 6-1>によれば、農学部で学んでいることについて「とても満足している」または「ある程度満足している」との回答が全体の 8 割以上を占めている。ただし教育のあり方については、約 4 割が「もっと専門教育を重視すべき」と回答しており、「特に問題はない」の約 2 割を上回っていた。また「もっと教養を広げるべき」との回答も約 2 割あった。

[分析評]

全般に授業に対する満足度は高く、特に実験実習科目は高く評価されている。カリキュラム・ポリシーに掲げる項目のうち「実験、実習を特に重視する」姿勢が成果を挙げていると言える。本学の教育の基本理念として「対話を根幹とした自学自習を促す」ことを挙げているにもかかわらず自主的に学習する時間が短く、学生に自学自習の態度があまり身につけていないのは、理念の実現という観点からの成果が十分に挙がっていないことを示している。今後、例えばセメスターあたりの修得単位制限を設け、その下で積極的に自主学習を促すような指導を行っていくなど、改善が必要である。

[資料]

○授業評価アンケート報告書

6-5. 修了生および就職先関係者等へのアンケート調査／意見聴取と結果

平成 22 年度大学院修了生に対して実施したアンケート調査の結果（第 5 章<表 5-2>参照）によると、教育に関するいずれの項目についても満足度は概ね高かった。特に学位論文の指導体制については約 9 割が「十分に満足している」あるいは「満足している」と回答している。研究指導は、いずれの専攻においても重視しているところであり、好ましい結果と言える。

また平成 21 年度に企業等に対して実施した本研究科修了者の学力・能力に関するアンケート調査の結果<図 6-2>によると、専攻分野における専門的知識、論理的思考力、文章を作成する能力などの国語力など、学力に関係する項目については、いずれも「十分である」と「まずまず」をあわせた回答が全体の 80%以上を占め、高く評価されていることが判明した。また粘り強さ、協調性、倫理感覚など人間的な能力に関係した項目も、同様に 80%以上が満足できるレベルにあると評価されている。その他の項目に関しても概ね評価は高かったが、英文作成能力ならびに英語によるプレゼンテーション・コミュニケーション能力が他の項目と比べ低く評価される傾向があった。特に後者に関しては「まったく不足している」との回答も若干見られた。

[分析評]

アンケート結果により、学生の主要な部分を占める大学院の教育内容に対する満足度は高く、また主な就職先企業も農学研究科の教育を期待される水準にあると見なしていることが明らかとなった。本研究科が目的とする優秀な技術者、研究者、高度な専門家等の育成に関して、満足 of いく成果が挙げられていると言える。ただし英語能力の不足を指摘する意見については、真摯に受け止め、今後尚一層の外国語教育の充実を図りたいと考えている。

[資料]

○農学研究科修了時アンケート用紙 ○就職先アンケート用紙

<表6-1> 学部および大学院における学位授与数

年度	学士	修士	博士（課程修了）	博士（論文提出）
平成 1 8	292	268	74	43
平成 1 9	294	297	77	31
平成 2 0	303	292	55	32
平成 2 1	296	293	57	23
平成 2 2	311	286	49	13
平均	299	287	62	28
平均入学者数	316	305	75	
定員	300	263	120	

<表6-2> 大学院修士課程修了者の進路状況

年度	修了者	進学	就職	その他	就職先			
					研究者	技術者	教員	その他
平成 1 8	268	54	207	7	65	81	4	57
平成 1 9	297	63	218	16	76	78	2	62
平成 2 0	292	43	237	12	70	91	2	74
平成 2 1	293	64	212	17	44	110	3	55
平成 2 2	288	56	217	15	64	108	7	38

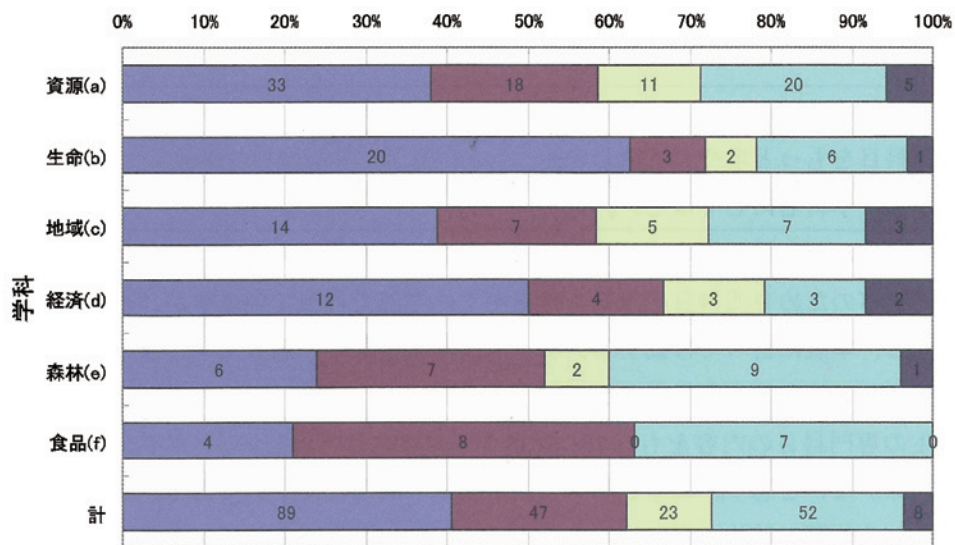
<表6-3> 大学院博士後期課程修了者・研究指導認定退学者の進路状況

年度	修了・認定退学者	進学 ¹⁾	就職	その他	就職先			
					研究者 ²⁾	技術者	教員	その他
平成 1 8	91	5	77 (85%)	9	59	6	7	5
平成 1 9	101	12	82 (81%)	7	50	16	9	7
平成 2 0	70	6	53 (76%)	11	38	7	8	0
平成 2 1	66	1	57 (86%)	8	43	9	4	1
平成 2 2	65	7	55 (83%)	3	37	6	9	3

※1) 研修員等、2) 博士研究員（PD）を含む

＜図6-1＞在学生への教育に関するアンケート調査

（２）教育のあり方について



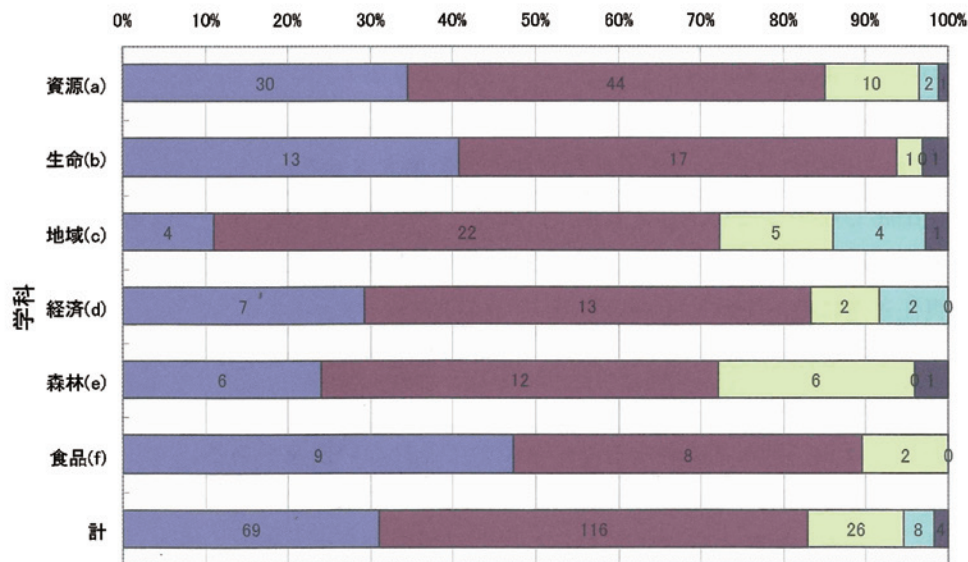
教育のあり方について

■ 1. 専門教育をもっと重視すべき ■ 2. もっと教養を広げるべき ■ 3. もっと実践的な教育にすべき
■ 4. 特に問題はない ■ 空白

注1：棒グラフ中の数値は回答者数を表す。

注2：学科間の比率の差を検定するために χ^2 検定を行ったところ、有意な差はみられなかった。

（３）農学部で学んでいることをどう感じているか



農学部で学んでいることについて

■ 1. とても満足している ■ 2. ある程度満足している ■ 3. やや不満である ■ 4. とても不満である ■ 空白

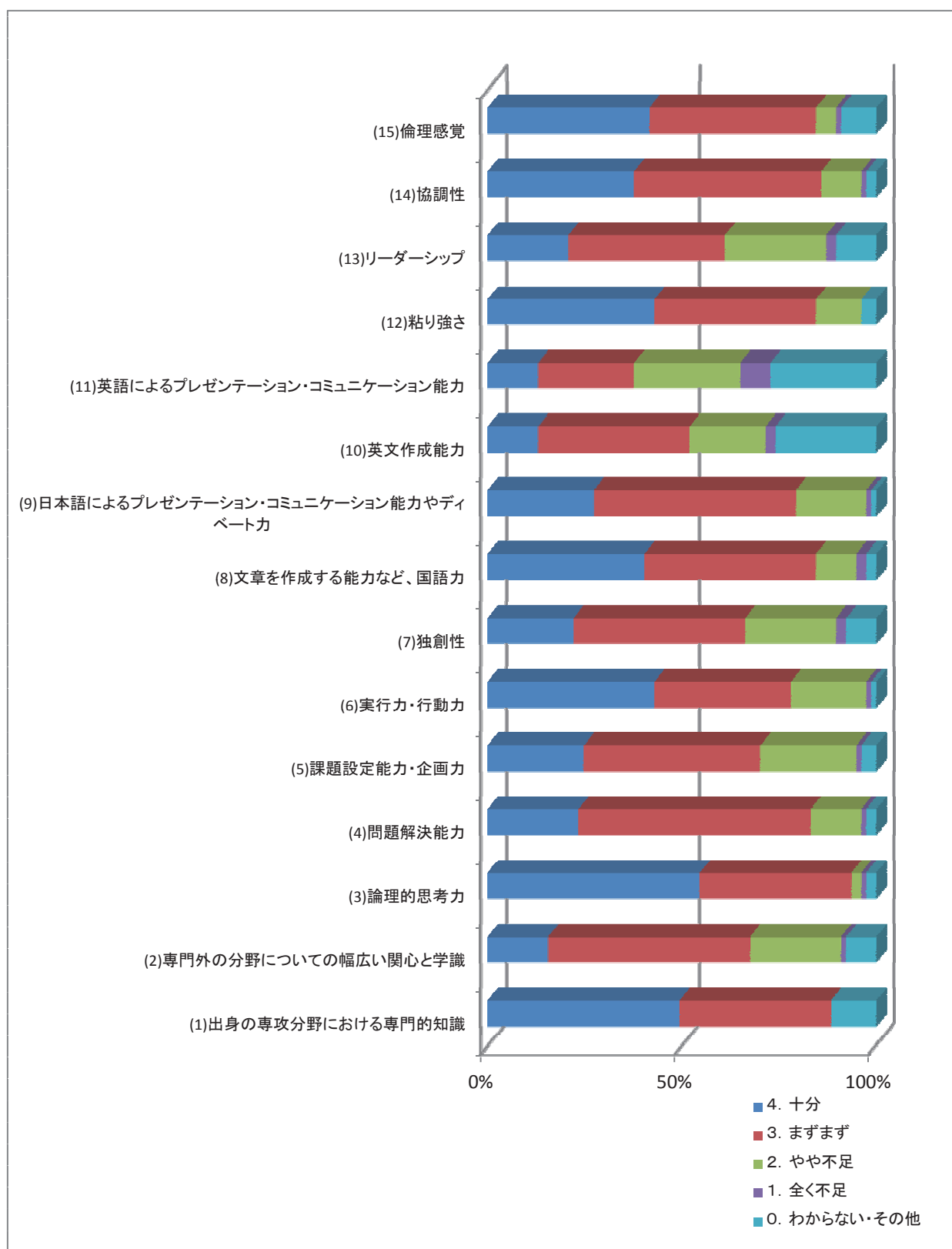
注1：棒グラフ中の数値は回答者数を表す。

注2：学科間の比率の差を検定するために χ^2 検定を行ったところ、有意な差がみられた
($\chi^2(15)=25.175, p<.05$)。

＜図6－2＞就職先アンケート調査結果

I. 大学院修了生に対する評価

質問1 京都大学大学院農学研究科修了者の学力・能力等に関してお尋ねします。各項目について、以下の4. から0. のいずれかを選び、右の枠にチェック願います。



Ⅱ. 学部卒業生に対する評価

質問1 京都大学農学部卒業生の学力・能力等に関してお尋ねします。各項目について、以下の4. から0. のいずれかを選び、右の枠にチェック願います。

